

# $\sum_{k=1}^n k^p$ は $\sum_{k=1}^n k$ と $\sum_{k=1}^n k^2$ からできている

まつうら よしとも  
松浦 芳朋

## §1. 導入

自然数  $p$  について、

$$S_p = \sum_{k=1}^n k^p$$

とおく。2022 年度の山形大学の入試で、 $S_5$  を  $S_1$  を用いて表す問題が出題された。教科書では

$$S_0 = n, \quad S_1 = \frac{1}{2}n(n+1),$$

$$S_2 = \frac{1}{6}n(n+1)(2n+1), \quad S_3 = \left\{ \frac{1}{2}n(n+1) \right\}^2$$

を、主に  $(k+1)^{p+1} - k^{p+1}$  の計算と二項定理で求めている。例えば、 $S_5$  については、

$$(k+1)^6 - k^6 = 6k^5 + 15k^4 + 20k^3 + 15k^2 + 6k + 1$$

であるから

$$\begin{aligned} & \sum_{k=1}^n \{(k+1)^6 - k^6\} \\ &= \sum_{k=1}^n (6k^5 + 15k^4 + 20k^3 + 15k^2 + 6k + 1) \end{aligned}$$

$$(n+1)^6 - 1 = 6S_5 + 15S_4 + 20S_3 + 15S_2 + 6S_1 + S_0$$

これをまとめていくと、

$$S_5 = \frac{1}{12}n^2(n+1)^2(2n^2+2n-1) = \frac{1}{3}S_1^2(4S_1-1)$$

を得られる。しかし、その過程で  $S_4$ ,  $S_3$ ,  $S_2$ ,  $S_1$ ,  $S_0$  のすべてが必要で、計算が複雑である。

本稿では、 $S_p$  が  $S_1$  と  $S_2$  の多項式で表されることを  $p$  が奇数と偶数の場合に分けて示していく。扱いやすさから、先に  $p$  が奇数の場合を述べる。

## §2. 奇数の場合

一般的に

$$(k+1)^p k^p - k^p (k-1)^p = k^p \{(k+1)^p - (k-1)^p\}$$

が成り立つので

$$\begin{aligned} & \sum_{k=1}^n \{(k+1)^p k^p - k^p (k-1)^p\} \\ &= \sum_{k=1}^n k^p \{(k+1)^p - (k-1)^p\} \end{aligned}$$

ここで

$$\sum_{k=1}^n \{(k+1)^p k^p - k^p (k-1)^p\} = \{n(n+1)\}^p - 0$$

であるから

$$\{n(n+1)\}^p = \sum_{k=1}^n k^p \{(k+1)^p - (k-1)^p\} \quad \dots\dots \textcircled{1}$$

特に、 $p=1$  のとき

$$n(n+1) = \sum_{k=1}^n k \{(k+1) - (k-1)\} = \sum_{k=1}^n k \cdot 2 = 2S_1$$

$$S_1 = \frac{1}{2}n(n+1)$$

①より

$$(2S_1)^p = \sum_{k=1}^n k^p \{(k+1)^p - (k-1)^p\} \quad \dots\dots \textcircled{2}$$

②の  $p$  に自然数を順次代入して、右辺に二項定理を適用していく。

$p=2$  のとき

$$(2S_1)^2 = \sum_{k=1}^n k^2 \{(k+1)^2 - (k-1)^2\}$$

$$= \sum_{k=1}^n k^2 \cdot 4k = 4S_3$$

$$S_3 = S_1^2$$

$p=3$  のとき

$$(2S_1)^3 = \sum_{k=1}^n k^3 \{(k+1)^3 - (k-1)^3\}$$

$$= \sum_{k=1}^n k^3 \cdot 2(3k^2 + 1)$$

$$= 2(3S_5 + S_3)$$

$S_3 = S_1^2$  であるから、まとめると

$$S_5 = \frac{1}{3}(4S_1^3 - S_3) = \frac{1}{3}S_1^2(4S_1 - 1)$$

$p=4, 5$  のとき、計算は省略するが

$$S_7 = 2S_1^4 - S_5 = \frac{1}{3}S_1^2(6S_1^2 - 4S_1 + 1)$$

$$S_9 = \frac{1}{5}(16S_1^5 - 10S_7 - S_5)$$

$$= \frac{1}{5}S_1^2(16S_1^3 - 20S_1^2 + 12S_1 - 3)$$

を得る。一般的に、②の右辺を計算すると

$$\begin{aligned} & \sum_{k=1}^n k^p \cdot 2({}_p C_1 k^{p-1} + {}_p C_3 k^{p-3} + {}_p C_5 k^{p-5} + \dots) \\ &= 2 \sum_{k=1}^n ({}_p C_1 k^{2p-1} + {}_p C_3 k^{2p-3} + {}_p C_5 k^{2p-5} + \dots) \\ &= 2({}_p S_{2p-1} + {}_p C_3 S_{2p-3} + {}_p C_5 S_{2p-5} + \dots) \end{aligned}$$

②から

$$S_{2p-1} = \frac{1}{p}(2^{p-1} S_1^p - {}_p C_3 S_{2p-3} - {}_p C_5 S_{2p-5} - \dots)$$

よって、 $p \geq 2$  のとき、 $S_{2p-1}$  は  $S_1$  の  $p$  次式で、 $S_1^p$  の係数は  $\frac{2^{p-1}}{p}$  である。

更に、数学的帰納法により  $S_{2p-1}$  は  $S_1^2$  を因数にもつ。

ここで、①、②は、 $S_{2p}$  のパターンには式の作り方から適応できない。 $S_{2p}$  の場合は、別の方針で考えなければならない。

### §3. 偶数の場合

一般的に

$$\begin{aligned} & (2k+1)(k+1)^p k^p - (2k-1)k^p (k-1)^p \\ &= (2k^{p+1} + k^p)(k+1)^p - (2k^{p+1} - k^p)(k-1)^p \\ &= 2k^{p+1}\{(k+1)^p - (k-1)^p\} + k^p\{(k+1)^p + (k-1)^p\} \end{aligned}$$

であるから、①を作るときと同様の議論で

$$\begin{aligned} & (2n+1)\{n(n+1)\}^p \\ &= 2 \sum_{k=1}^n k^{p+1}\{(k+1)^p - (k-1)^p\} \\ & \quad + \sum_{k=1}^n k^p\{(k+1)^p + (k-1)^p\} \quad \dots \quad \textcircled{3} \end{aligned}$$

を得る。特に、 $p=1$  のとき

$$\begin{aligned} (2n+1)n(n+1) &= 2 \sum_{k=1}^n k^2\{(k+1) - (k-1)\} \\ & \quad + \sum_{k=1}^n k\{(k+1) + (k-1)\} \\ &= 2 \sum_{k=1}^n 2k^2 + \sum_{k=1}^n 2k^2 = 6S_2 \end{aligned}$$

よって

$$S_2 = \frac{1}{6}n(n+1)(2n+1)$$

となる。これと③から

$$\begin{aligned} 6S_2(2S_1)^{p-1} &= 2 \sum_{k=1}^n k^{p+1}\{(k+1)^p - (k-1)^p\} \\ & \quad + \sum_{k=1}^n k^p\{(k+1)^p + (k-1)^p\} \quad \dots \quad \textcircled{4} \end{aligned}$$

②のときと同様に、④の  $p$  に自然数を順次代入して、右辺に二項定理を適用していく。

$p=2$  のとき

$$\begin{aligned} 6S_2 \cdot 2S_1 &= 2 \sum_{k=1}^n k^3\{(k+1)^2 - (k-1)^2\} \\ & \quad + \sum_{k=1}^n k^2\{(k+1)^2 + (k-1)^2\} \\ &= 2 \sum_{k=1}^n k^3 \cdot 4k + \sum_{k=1}^n k^2 \cdot 2(k^2+1) \\ &= 10S_4 + 2S_2 \\ S_4 &= \frac{1}{5}S_2(6S_1-1) \end{aligned}$$

$p=3$  のとき

$$\begin{aligned} 6S_2(2S_1)^2 &= 2 \sum_{k=1}^n k^4\{(k+1)^3 - (k-1)^3\} \\ & \quad + \sum_{k=1}^n k^3\{(k+1)^3 + (k-1)^3\} \\ &= 2 \sum_{k=1}^n k^4 \cdot 2(3k^2+1) + \sum_{k=1}^n k^3 \cdot 2(k^3+3k) \\ &= 14S_6 + 10S_4 \\ S_6 &= \frac{1}{7}(12S_2S_1^2 - 5S_4) = \frac{1}{7}S_2(12S_1^2 - 6S_1 + 1) \end{aligned}$$

以下、同様の計算で、 $p=4$  のとき

$$\begin{aligned} 24S_2S_1^3 &= 9S_8 + 14S_6 + S_4 \\ S_8 &= \frac{1}{9}(24S_2S_1^3 - 14S_6 - S_4) \\ &= \frac{8}{3}S_2S_1^2(S_1-1) + S_4 \\ S_8 &= S_2\left(\frac{8}{3}S_1^3 - \frac{8}{3}S_1^2 + \frac{6}{5}S_1 - \frac{1}{5}\right) \end{aligned}$$

$p=5$  のとき

$$\begin{aligned} 48S_2S_1^4 &= 11S_{10} + 30S_8 + 7S_6 \\ S_{10} &= \frac{1}{11}(48S_2S_1^4 - 30S_8 - 7S_6) \\ S_{10} &= \frac{1}{11}S_2(48S_1^4 - 80S_1^3 + 68S_1^2 - 30S_1 + 5) \end{aligned}$$

一般的に、④より

$$\begin{aligned} & 6S_2(2S_1)^{p-1} \\ &= 2 \sum_{k=1}^n 2k^{p+1}({}_p C_1 k^{p-1} + {}_p C_3 k^{p-3} + {}_p C_5 k^{p-5} + \dots) \\ & \quad + \sum_{k=1}^n 2k^p(k^p + {}_p C_2 k^{p-2} + {}_p C_4 k^{p-4} + \dots) \end{aligned}$$

であるから

$$\begin{aligned} & 3S_2(2S_1)^{p-1} \\ &= \sum_{k=1}^n 2k^{p+1}({}_p C_1 k^{p-1} + {}_p C_3 k^{p-3} + {}_p C_5 k^{p-5} + \dots) \\ & \quad + \sum_{k=1}^n k^p(k^p + {}_p C_2 k^{p-2} + {}_p C_4 k^{p-4} + \dots) \\ &= (2p+1)S_{2p} + (2{}_p C_3 + {}_p C_2)S_{2p-2} + \dots \end{aligned}$$

よって、数学的帰納法により  $S_{2p}$  は必ず  $S_2$  を因数にもつ。

また、 $S_{2p}$  は、 $S_1$  の  $p-1$  次式で、 $S_2 S_1^{p-1}$  の係数は  $\frac{3 \cdot 2^{p-1}}{2p+1}$  である。

《参考文献》

- [1] 新課程 チャート式数学 II+B, 数研出版  
(福島県立葵高等学校)